

令和8年度古文書解読講座入門編 解答

1 変体かなになれよう

①「鳥獣草花絵本初心道しるべ」

①ほうらいのかめ②しし③つる④うくひす／むめ(梅)⑤からなし(↓かりん)／がびちよう⑥あふひ(↓あおい)⑦小あふひ⑧いてう(いちよう)⑨あき顔／きやうだい(鏡台)⑩かハセミ／なてしこ⑪はぎ／がうな(↓かたつむり)⑫のかいのうし⑬いとかけぐさ⑭ぼたん⑮やなきつはめ⑯らうばい(蠟梅)／すゞめ⑰なづな⑱からまつ草⑲かきつばた⑳ぼたゆり／ちごゆり㉑ゆきのした㉒あらせいたう(アブラナの一種)㉓きんしたう／つくミ㉔かざり馬㉕ちやひきぐさ／いたどり㉖かさゝぎ／さざんくハ㉗ほうわう(鳳凰)㉘はこねうつぎ

②「東讃電車唱歌」

(1) 我大君の御恵は／都も鄙もおしなべて／汽車や汽船や電氣車の／通ひかよはぬ／里ぞなき (2) 日本三景随一の／栗林公園来てみれば

／松の緑にこきまぜて／玉蘭蘇鉄花紅葉 (3) 駅鈴の響にうなかされ／藤塚出晴いつのまに／此処に築地と思ひまや／今は今橋ステーション

(4) 松島四丁目過ぎ行けば／沖松島の本の間より／真帆や白帆の行きかふば／造化のゑがける／うつし画か (5) 白砂青松数十里／水村山

郭酒旗の風／飛ぶ火の野守出て見よ／春日の川春かすみ (6) 西潟元の浦行けば／寿永の昔しのぼるゝ／み空にのぼるのろし火は／あまたの

伏屋の夕煙

③「金毘羅参詣続膝栗毛」

①に、このところの払いをなして立ち出で、曼陀羅寺へ参り、やがて弥谷寺のふもと(麓)にいたる。こんぴらよりこのところまで三里あり。にぎりめしを名物としてうる茶屋

②あり。既にはやけふ(今日)も七ツ過ぎたる頃となり、これまで

③曼陀羅寺より殊に陰難の山坂をへて来るなれば

④おの／＼(各々)足もつかれ。そのうえ小雨のふり出したるに。多度

⑤津のかた(方)へはまだ程遠きよしを聞くより。いざやこゝに

⑥止宿せばやと相談して。或茶屋のうちへは(入)り

⑦弥次「ナントわつちらを、と(泊)めてくんなさねへがちと早い

⑧が(と)泊まりてへものだ。」ちや(茶)屋の(ばゞ)婆「エイお宿ノウしましよ。上ら

⑨しやませ。コリヤ長松(ちよま)ネヤ。湯ノウく(汲)んでも(持)てこ(来)い。サア足

⑩ノウすゝ(濯)いでそら(上)へあがらしませ」北八「アイこれはお世話

⑪サア一所にやらかしやしやう。」トみなゝ(皆々)わらじをとき、あし(足)をあら(洗)ひて。おく(奥)のむさくるしきざしき(座敷)へとを(通)る。

⑫(女)「わしやまたおなか(腹)が、さもしゆうなつたわいな。」(弥次郎兵衛)「イヤおめへ

⑬あとの茶屋で。おはち(鉢)をかえてく(食)ひながら。またひもし(じ)

⑭いとは。とんだく(食)らいぬけだぞ。」女「そじやてて。なん(何)ぞくわ

⑮しんかいな。」弥次「コレコレばあ(婆)さん。めし(飯)のできるにはあいだ(間)が

⑯あろうから。何ぞほかにくふ(食う)ものはねへかへ」ばば(婆)「にぎ(握)りめし(飯)

⑰ノウ。この名物でござる。くハ(食)しませ。」北八「コリやよからう

⑱それをこけへ出してくんな。ばば(婆)「エイ／＼いんまいつきに。コレナ

⑲おかた(方)ねヤ。はや(早)うき(来)やしやませ。コレちよま(長松)よ、めしびつ(飯櫃)ノウ

⑳も(持)てこいやい。」トにわかになさハ(騒)ぎたちて。ばゞハめしびつ(飯櫃)引きよせ、めし(飯)をやみくもとにぎ(握)りながら、

「こりやちよま(長松)ヨ

㉑くわんす(鐘子)の下ナアもやくべてゑつとた(焚)けやい。コノまたおこれん

㉒ハ何ちふしてゐざるぞい。エ、ほてはら(腹)ノウに(煮)へかへ(返)る。」トむしやう(無性)ふにやか

㉓ましくしやべりながら、ひばち(火鉢)にかけてや(焼)きたて、「コリヤ／＼ちよま(長松)よ。コノや(焼)けたノウ盆に

㉔の(載)せて。ちやとおく(奥)へも(持)ていけやい。コリヤ／＼炭団の(載)せるの

㉕じやないわい。エ、何ちふするねヤ。こちどけやい。」トふき(落)、ワラビ

㉖とうふ(豆腐)のひ(干)からびたに(煮)しめつけて、や(焼)きめし(飯)をぼん(盆)にも(盛)りおく(奥)へも(持)ちだ(出)す。北八「是は御くろう(苦勞)。サアどなたもやつて

㉗見なせへ。」弥次「ヲヤば(婆)さん。此に(握)りめしハ。なぜこんなに

㉘まつくろ(黒)だの」(婆)「ソリヤ黒いのハナア。はじ(初)めににぎ(握)った

㉙三ツ四ツばかりでござる。」弥次「そんならその三ツ四ツへおめへ

㉚の手あか(垢)は付いてしまつたといふものだから。その跡ハ

㉛みな(皆)しろ(白)いのか。」ばゞ「インヤねヤ。まだあとにもござる。うちの

㉜ぐハたろうめがナア。」子どもの事を川童というところにて。ぐハたろうといふ。ぐハたろうとハかつば(河童)のこと也。(婆)「たどん(炭

団)ノウ

㉝にぎ(握)りめし(飯)とまちが(間違)へて。盆にも(盛)りおつたがナア。その

㉞炭が盆にくつつひてにぎ(握)りめし(飯)ノウ。くろ(黒)なつたも

㉟ござろわい。それとたどん(炭団)ノウく(食)ハしやますなら

③⑥ここへも(持)てずろかいねや。」北八「ナニ、たどん(炭団)がく(食)ハれるものか。
③⑦とんだことをいふばあさま(婆様)だ。」ばゞ「インヤそないにい(言)わしや

③⑧ますな。わしどもはく(食)ひおりますわい。きのうふべりもナア

③⑨庄屋どの(殿)のうちかたにナア、心ざしノウござるてて。

④⑩たどん(炭団)ノウこしろうて。あづき(小豆)かけてくばらしやまし

④⑪たわいねや。」北八「ナニうそ(嘘)ばつかり。ソリヤたどん(炭団)じやア

④⑫あるめへ。ぼたもち(餅)のことたろう。」ばゞ「ホンニナアそのぼた

④⑬もち(餅)でござった。わし覚えぞこなひでござるねや。」

④⑭弥次「おもしろ(面白)くもねへなん(何)のこつた。ハ、ハ、ハ」北八「それはいゝが

④⑮なんにしる此にぎ(握)りめし(飯)は親父のひとりもの(二人者)ときて

④⑯爺、無妻だからあやま(謝)る。もふこれぎりで。あと(後)は

④⑰いらねへよ。サアおめへがた(方)はどうだ。く(食)ひなさらねへか。」

④⑱女「わしやなん(何)でもよいわいな。ととさんあがりいな。いこもむ

④⑲ない(味無)ことはなひわいな。」ト

4 数字・単位

①高六千五百八拾五石式斗 ②一米式石四斗 ③金拾九両 ④金式両也 ⑤四両式歩 ⑥式歩式朱

⑦銀四百目四分 ⑧銀五貫六百八拾壹匁壹分

⑨鳥目壹貫文 ⑩一銀札四貫百六拾三匁九分三厘 ⑪百目位 ⑫参拾五錢 ⑬式拾壹錢 ⑭赤飯壹重

⑮田方免三ツ壹歩

九郎右衛門元屋敷 幾三郎事

一下々田四畝拾式歩 忠三郎

同所東下井手上 同人

一下々田九歩

ころろ谷自分池下 同人

一下々田三畝式拾壹歩 同人

同所自分池東道間 幾三郎事

一下々田壹畝歩 忠三郎

畝ゞ九畝拾式歩

高六斗五升八合

畑方免三ツ六歩

5 人名

(女性) ①いま ②うた ③ゑい ④かつ ⑤こま ⑥しか ⑦しま ⑧すが ⑨その ⑩たい ⑪とよ ⑫なを ⑬ひて ⑭みよ ⑮わき

⑯たつ ⑰なつ ⑱べん

(男性) ①権平 ②愛蔵 ③清蔵 ④平太 ⑤忠太 ⑥善吉 ⑦佐七郎 ⑧三十郎 ⑨五郎兵衛 ⑩喜兵衛 ⑪吉兵衛 ⑫政之丞 ⑬甚右衛門

⑭三好四郎兵衛殿 ⑮平左衛門 ⑯文右衛門

6 地名

①御料私領社領 ②大内郡小海村与田山村 ③寒河郡奥山 ④寒川郡村々 ⑤三木郡池戸 ⑥香川郡東岡村 ⑦鵜足郡東坂元村

⑧那珂郡岸上村 ⑨豊田郡財田 ⑩豊田郡井関村 ⑪小豆島草加部村

⑫引田浜 ⑬馬宿村 ⑭白鳥村 ⑮湊村 ⑯帰来村 ⑰塩屋村 ⑱入野中山 ⑲横内村 ⑳土居村 ㉑松崎村 ㉒三殿村 ㉓水主村 ㉔津田村

㉕古高松村 ㉖潟元村 ㉗春日村 ㉘北亀田村 ㉙六条村 ㉚上多肥村 ㉛西植田村 ㉜菅沢村 ㉝浅野村 ㉞川東村

7 返読文字

①有之候 ②在之候 ③罷出可申 ④難相勤 ⑤可申上候 ⑥可被申候以上 ⑦以手紙申達候 ⑧一件被仰渡 ⑨乍恐奉願上口上

⑩奉存候然ル処 ⑪難有仕合ニ奉存候 ⑫無據

⑬右之通用水御普請

下積仕御願申上候御見

分之上被為 仰付被下

候様宜被仰上可被下候 以上

中ノ村庄屋

与市判

8 往来手形

①往来手形一札

②一伊州伊賀郡高尾村之住人 年三拾五才 弥平太

③此者今般依心願四国遍路ニ罷出候間

④所々 御関所并船川無滞御通可被下候

⑤若行暮候ハ、一宿御願申上候尤煩候就

⑥万一相果候時ハ其所之御作法通り御取置

⑦仕舞可被下候別段此方へ御届ケ不及申候間

⑧為後日往来一札如件

⑨ 弘化三年ノ年

六月

⑩ 藤堂和泉守殿領分
伊州伊賀郡高尾村

曹洞宗

西明寺（印）

⑪国々

御役所

庄屋

藤永忠治郎（印）

御番中

町々宿々

御役所衆中

9 借用仕銀子之事

①借用仕銀子之事

②一合壹貫五百目 元銀也

③右者亥ノ御年貢米指支借用

④仕処実正ニ御座候然上者子ノ暮

⑤壹割之利息ヲ加元り共急度御

⑥返納可申上候為後日証文差

⑦上置申候 以上

⑧宝暦六年子ノ六月八日 羽方村 武右衛門（印）

松崎村 白井弥兵衛（印）

⑨ 高橋平左衛門様

⑩ 御取次

10 小夫家由緒書

①一小夫理右衛門尉正之 後名宗林

②旧領小夫村居住天正十年明智日向守光秀主人織田信

③長江逆心有テ信長生害ノ後太閤秀吉公と城州にて

④及合戦時理右衛門正之妻の兄井戸左馬之介ハ光秀姪

⑤婿ナルニヨリ光秀を介て城州宇治郡槇嶋二一城ヲ構て

⑥秀吉ノ軍士と戦へとも光秀光秀滅亡により勝利かた

⑦かるへき事ヲはかりて和州の一族筒井順慶扱ふニまかセ

⑧（和）談して槇嶋の城ヲ開キ左馬介ハ細川家ニ行正之も

⑨左馬介ト一所ニ槇嶋にあり和談調により城ヲ出て大和二帰ル

⑩時和州の内菩提山にて為秀吉公一族并家臣大半滅亡

⑪セリ正之掲小夫村に帰陣して籠居ス其後大納言秀長卿

⑫大和領主の時正之秀長の臣と成ル秀長天正十九年夏

⑬卒去養子中納言秀俊卿ニ属ス文禄四戊年（文禄4年は乙未）秀俊の兄関白

⑭秀次公逆心ノ時秀俊も守領ヲはなさる従者与力の党も

⑮被誅又ハ配流セらる此時正之池田三左衛門輝政ニ被預参州

⑯吉田ニ居住慶長五子秋関原合戦の時輝政ハ供奉

⑰（東）照宮吉田城ハ海道為要地により従軍過半残シテ

⑱守ると雖とも関原破れて逆徒上方ニ退くにより吉田

⑲静謐也慶長五年輝政播州ニ所替の時正之も遵かひ行

⑳同国完栗ニ居住慶長九甲辰年正月十九日卒ス法名

㉑実栄宗林禅定門ト号正之ニ三男有り嫡子某尾州被召出

㉒子孫ヲ不知聞可尋二男小夫伝兵衛紀州江被召出

㉓頼宣公為御家臣譜奥ニ記三男小夫庄右衛門正義

㉔水戸江 被召出又正之舍弟南都正智院香祐法印是なり

㉕妹三人あり福蔵主挾川新之丞妻山田民部少輔妻来歴ノ

㉖□有増相続シテ子孫ニ伝とふ且他家記録和州一類

㉗小夫浅右衛門覚書正智院聞伝江ノ事皆大概其旨同前

㉘也

11 小夫兵庫履歴書

履歴書 亡小夫兵庫 初名 滝之助

1 一天保元年六月一日亡父茂太郎義家督間モ無之致

2 病死其方義未タ幼年ニ候得共家筋之者ニ付幼少之

3 内式拾人扶持被下大御番組被仰付尤成人仕御奉公可

4 相勤頃ニモ相成候得者其節家督可被仰付旨も仰付 此時五歳

5 一同年八月十一日幼年独身ニ付当分縁者寛速水方江

6 同居致候

7 一同三年六月十九日亡父茂太郎病死之節ハ其方義至テ

8 幼少ニ付家督不被 仰付候親勤之間モ無之候得共先祖共

9 旧功モ有之家筋之者ニ付未タ年足不申候得共格別

10 之思召ヲ以テ御小姓被 仰付家督無相違高四百

- 1 1 五拾石被下置候是迄被下候御扶持ハ指上加申旨被仰付
- 1 2 一同十一年十二月十四日元服内十三年二月九日前髮取 実名正容卜称ス
- 1 3 一弘化元年五月廿五日出府被仰付御供卜相心得御在府中
- 1 4 相詰候様被仰付七月出府
- 1 5 一同三年六月廿日御滞府御詰替ニ付御国へ之御暇被下
- 1 6 七月帰着
- 1 7 一嘉永三年九月四日総領組頭被仰付
- 1 8 一安政元年四月十二日御小姓頭被仰付
- 1 9 一同四年五月廿九日兵庫卜改名
- 2 0 一同六年三月十九日御馬廻番頭被仰付九月ヨリ翌年春
- 2 1 三月至ル為京都御警衛士三拾騎ノ将ニテ洛西塚原御
- 2 2 陳（陣）營在番
- 2 3 一文久二年二月十九日御番院書院番頭被仰付三月ヨリ秋
- 2 4 九月至為京都御警衛士三拾騎ノ将ニテ塚原御陳（陣）營在
- 2 5 番
- 2 6 一同三年二月十六日御用場見習被 仰付
- 2 7 一同年同月廿二日押廻月番被 仰付内組七人騎馬役三人
- 2 8 被下 七月廿五日無懈怠相勤候ニ付年寄役被 仰付
- 2 9 与力式騎御預被成候
- 3 0 一元治元年五月廿八日御政務方御免竹ノ間詰被仰付 六月九日内組指上
- 3 1 一慶応元年三月十二日御政務方再勤被 仰付内組七人被下
- 3 2 一同三年二月 殿様御上京被遊候ニ付御供被仰付有之候
- 3 3 処御不快ニ付御延引被遊候得共猶又御用有之候間早々
- 3 4 出京候様被 仰付同月廿三日出京同年十一月十三日猶又
- 3 5 御用有之京都ヨリ帰着
- 3 6 一明治元年正月十七日夜中年寄中ヨリ親類呼出ニテ兵庫
- 3 7 切腹可被仰付由之御内意ヲ達セラレル兵庫ハ不存外御
- 3 8 用有テ夜中ニ登城致御城ニテ右御内意之趣忽承腹
- 3 9 仕今生之御暇乞トシテ御目見相願候処早速御目見被
- 4 0 仰付段々御懇之御意有之御盃被下頂戴御暇乞仕尚
- 4 1 御家御長久幾久敷御繁昌被遊候様奉祈候段申上御
- 4 2 前ヲ罷立同列ノ人々へ暇乞致十八日曉ニ至帰宅
- 4 3 一同年同月十八日夜奉対 朝廷不届之義有之候ニ付
- 4 4 切腹被 仰付旨以上使奉行近藤畝平杉山市郎左エ
- 4 5 門被仰付即刻檀寺正覺寺へ罷越切腹致候
- 4 6 右之通御座候也

小夫隆之助

明治廿二年八月一日